

畑

三年

画数 9
筆順

はた・はたけ

成り立ち



あれた野や山の木ややぶに「火」をつけ、もやして作った「はたけ」のことをあらわした字です。

中国では、さくもつを作るところはすべて「田」といいましたが、わが国では、米を作るところを「た」といって「田」の字でこれをあらわし、ほかのさくもつを作るところは「はたけ」といつてくべつしました。しかし中国には「はたけ」をあらわす字がないので、「火」と「田」を組み合わせて「はたけ」をあらわしました。わが国で作った字ですから、音はありません。

「畠」という字もある。田より色が白っぽいという意味で作られた字である。」

使い方

▽夏休みにいなかのおじいちゃんの家に行きました。広いお花畑や、野菜畑があつて、毎日、お花をつんだり野菜をとったりして、お手つだいをしました。

▽花子さんのお父さんは、うちのお父さんと同じ会社でしごとをしています。畑で工場つとめてです。

熟語例

▽花畑（花がさいばいされている畑。しぜんの野山でも、草花がいちめんさいしているところは、花畑といえます。）

▽野菜畑（野菜をさいばいする畑）

▽畑違い（しごとする中みが違っていること。畑は、その土地にてきたものをさいばいしますので、野菜畑、麦畑、桑畑、茶畑など、さいばいされるものがさまっています。それが人のしごとのばあいとよくにているので、畑にたとえられるわけです。）

▽桑畑（桑がうえられてある畑。「桑原」ともいいます。中国では「桑田」といいました。）

▽焼き畑（あれた野や山の木ややぶを火で焼きはらって作った畑のこと。）

発

三年

画数 9
筆順

ハツ・ホツ

成り立ち



足のうらの形をあらわした「止」と「火」とを左右にならべた形の「𠄎」と、出発点をしめすせん「一」と、分かれる「い」みをあらわした「凡」とを組み合わせて作った字です。「出発点にそろえた左右の足が分かれる」といういみで「歩き始めること」をあらわしたものです。

「𠄎」の、左右にならんだ「止」と「火」とを、分けて上下にならべかえると「歩（年224「歩」）」になりますから、「歩き始める」といういみがよくわかるとおもいます。

「本字は『發』で、『弓』と、草を足で踏みにじる意の『𠄎』との会意・形声字で、「人を殺すべく弓を放つ」ことを表した字である。『発射』すること。」

使い方

▽朝、九時半に東京えきを出発して、十二時半には、大阪につきました。

▽発車まぎわの電車にとびのつたら、すぐにドアがしまつてしまいました。もう少しで、のりおくれるところでした。

熟語例

▽出発（あるところを目ざして、でかけること。）

▽発車（電車や汽車やバスなどが、出発すること。）

▽発射（矢や、てっぽうのたまをうつこと。「発射した矢がそれて、まとはずれた」などというふうに、つかいます。）

▽先発（ほかの人たちより先に出発すること。ほんたいは「後発」です。「先発たいは、わたしたちより三十分早く出発した」などというふうに、つかいます。）

▽発言（言葉を発すること。「ぎちようが、いいんの一人に発言をもとめた」などというふうに、つかいます。）

▽発達（せいちようして、前よりすぐれたものになること。「交通きかんが発達したので、遠いところへもはやく行けるようになった」など）